

将来の気温予測 (IPCC第5次評価報告書)

- ✓ 気候変動に関する政府間パネル(IPCC)が、現在第5次評価報告書を作成中。
- ✓ そのうち、第1作業部会(自然科学的根拠)の報告書が9月27日に公表された。

● 1986～2005年を基準とした、2081～2100年における世界平均地上気温の変化は、0.3～4.8℃の範囲に入る可能性が高い。

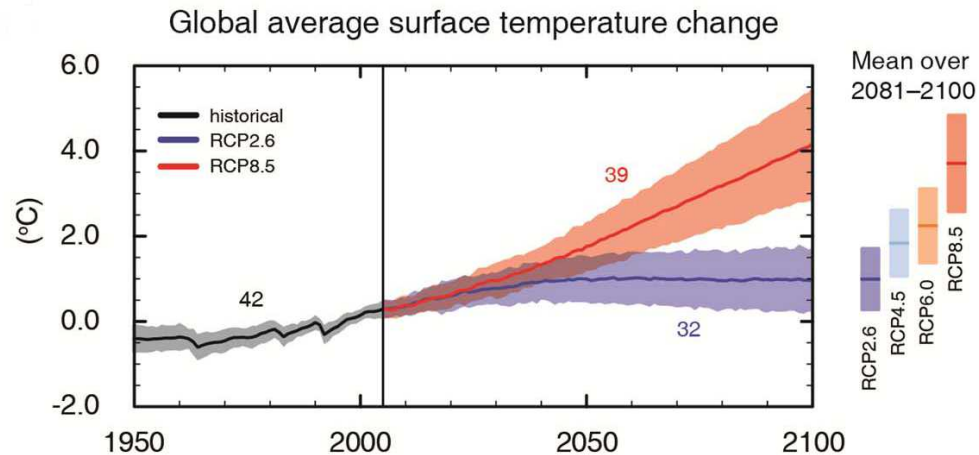


図1. 観測による世界平均地上気温変化
(1986年～2005年を基準とした世界の年平均地上気温の変化)

表1. 21世紀末における世界平均地上気温の昇温度予測

シナリオ	平均(℃)	「可能性が高い」予測幅 (℃)
RCP2.6	1.0	0.3-1.7
RCP4.5	1.8	1.1-2.6
RCP6.0	2.2	1.4-3.1
RCP8.5	3.7	2.6-4.8

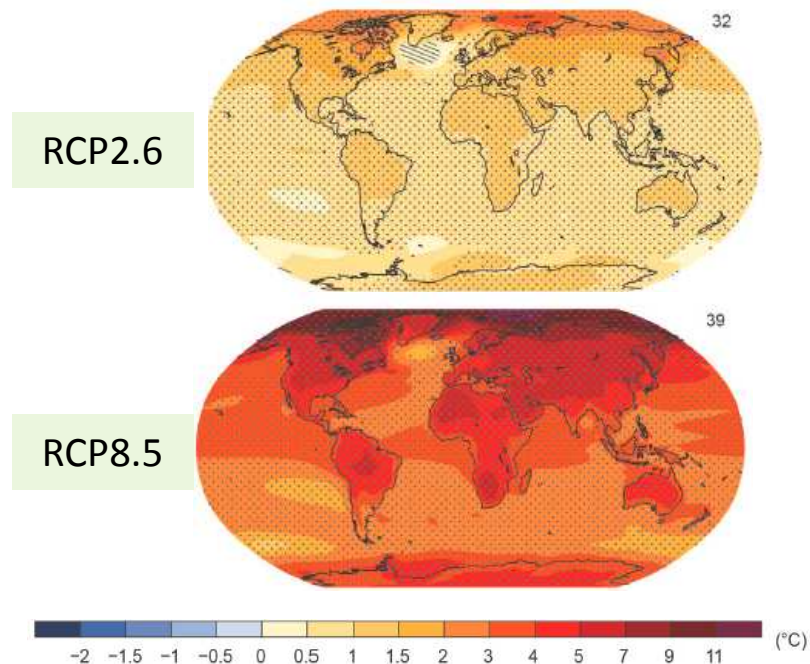


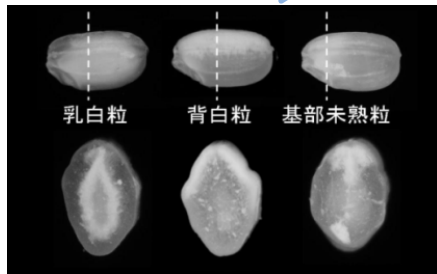
図2. 平均表面温度変化 (2081年～2100年の平均)
(1986年～2005年を基準)

出典: 図1 AR5 WG1 政策決定者向け要約 Fig SPM.7
表1 AR5 WG1 政策決定者向け要約 Table SPM.2
図2 AR5 WG1 政策決定者向け要約 Fig SPM.8

我が国における気候変動の影響

農作物

米が白濁するなど品質の低下が頻発。



図：水稻の白未熟粒
(九州沖縄農業研究センター提供)

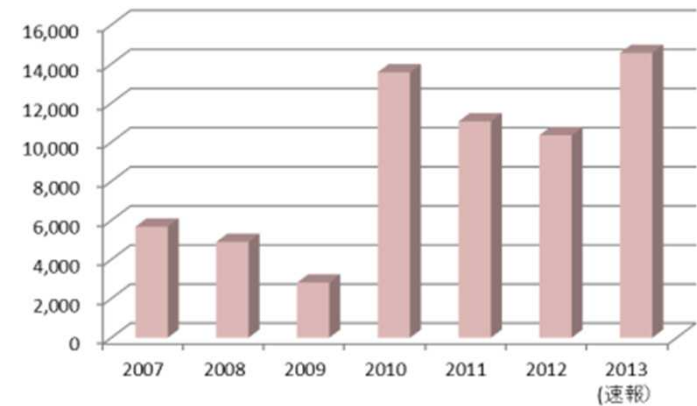
洪水



図：洪水被害の事例
(国土交通省中部地方整備局提供)

熱中症・感染症

2013年夏、20都市・地区計で15,180人の熱中症患者が救急車で病院に運ばれた。(速報)
(国立環境研究所 熱中症患者速報より)



異常気象

2013年夏、四万十市で、41℃という観測史上初の最高気温を記録(※)



図：吸血中のヒトスジシマカ
(国立感染症研究所)



デング熱の媒介生物であるヒトスジシマカの分布北上

生態系



図 サンゴの白化
(阿嘉島臨海研究所提供)

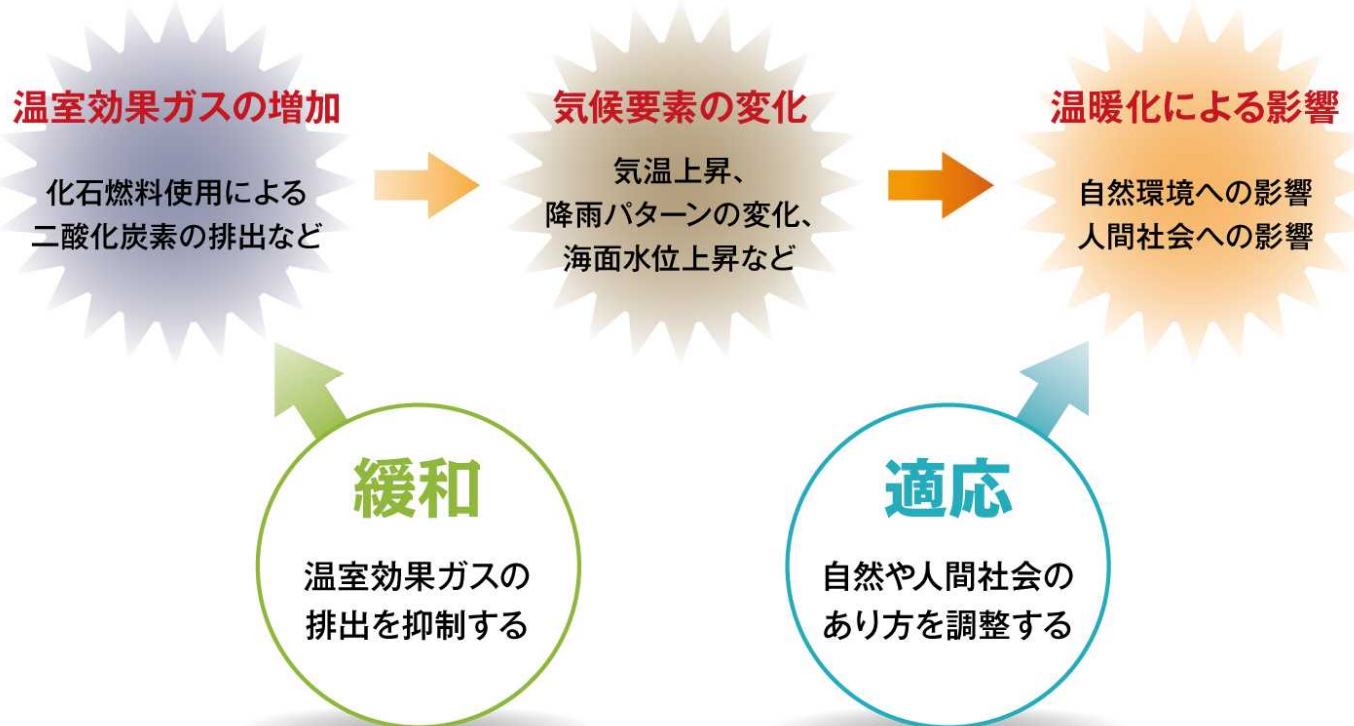
※ひとつひとつの気象現象と気候変動の関係を明確にすることは困難であるが、夏期平均気温の長期的な上昇傾向や猛暑日年間日数の増加傾向について気候変動の影響が指摘されている。

気候変動への適応の取組

○緩和とは：地球温暖化の原因となる温室効果ガスの排出を抑制

○適応とは：既に起こりつつある、あるいは起こりうる温暖化の影響に対して、自然や社会のあり方を調整

※気候変動に関する政府間パネル(IPCC)の第4次評価報告書では、「適応策と緩和策のどちらも、その一方だけでは全ての気候変動の影響を防ぐことができないが、両者は互いに補完しあい、気候変動のリスクを大きく低減することが可能であることは、確信度が高い」とされている。




適応計画策定に向けたステップ

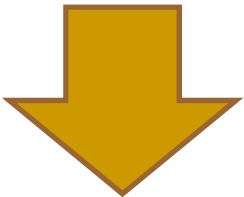
※2°C目標^(注)を達成したとしても、我が国において気温の上昇、降水量の変化、極端な現象の変化など様々な気候の変化、海洋の酸性化などの影響が生ずる恐れがあり、その影響への適応を計画的に進めることが必要とされている。

(注)2°C目標 産業革命以前と比べ世界平均気温上昇を2°C以内にとどめるため、温室効果ガスの濃度を安定させるという気候変動枠組条約に基づき、各国が合意した目標

第114回中央環境審議会地球環境部会にて気候変動影響評価等小委員会を設置(平成25年7月2日)

- 
- 極端現象を見るためのより詳細な日本の気候変動の予測
 - 気候変動が日本にあたる影響の評価
 - それらの結果を踏まえたリスク情報の分析 等

気候変動の影響及びリスク評価と今後の課題を整理し、意見具申として取りまとめ(平成27年1月頃)

- 
- 政府全体で、短期的(~10年)、中期的(10~30年)、長期的(30年~100年)に適応策を重点的に講ずべき分野・課題を抽出
 - 各省における検討

政府全体の総合的、計画的な取組として、適応計画を策定(平成27年夏目途)
※定期的な見直し(5年程度を目処)